

令和4年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和5年3月7日（火）

近畿中国森林管理局 大会議室 A（対面Web併用形式にて開催）

2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

国産丸太は、1月下旬の記録的な寒波による積雪の影響から各地の原木市場で市日の延期が相次いだが、その後の出材は回復している。スギの価格は保合で推移し、ヒノキの価格は3m材を中心に弱保合で推移、昨年末に急騰したヒノキの4m材は落ち着きを取り戻している。

輸入木材は、輸入コストの低下から価格の下がった構造用集成材の仕入れを増やす動きが見られるものの、住宅需要の停滞感の強まりからWウッドKD間柱の在庫調整の動きの鈍化も見られる。

上記のことから、直ちに国有林材による供給調整が必要との局面にあるとは判断しない。

なお、国有林においては計画した素材生産事業や立木販売による木材の安定供給・販売に取り組むことを第一義として、立木販売における購買意欲向上のための搬出条件の整備を進めるとともに、地域での樹種や用途等の需要動向、民有林材の出材状況、木材の輸出入状況、住宅着工戸数等について注視することが必要であり、引き続きこれらの情報収集・分析を行う。

〈主な情報、意見等について〉

○木材の需給動向について

- ・ 和歌山県内のプレカット工場では、住宅価格の上昇を受け、稼働率は例年の8割程度に落ちている。合板は納期遅れもなく順調に入荷されている。
- ・ 和歌山県内の製材工場では、受注は全体的に落ち着いてきているが、稼働率は100%を維持している。大手国内メーカーが米マツ製品を値下げしたことから国産製品も値下げをしないと買ってもらえない状況にある。
- ・ 和歌山県内の木質バイオマス発電所では、現在4基の発電所が稼働しており、燃料用材と競合するC材の需要が伸びていることから、燃料用材の集荷に苦戦している。発電所の中には買取価格を上げて燃料用材を確保しているところもある。
- ・ 和歌山県内の原木市場では、県内4箇所における令和4年の合計出荷量は67千m³と対前年比104%となっている。令和5年2月のスギ中丸太の平均価格は13,139円/m³で前月比102%、ヒノキ中丸太の平均価格は17,604円/m³で前月比97%と、ヒノキの価格が徐々に下がってきている。
- ・ 岡山県内では、昨年末と1月末に大きな寒波が襲来し、積雪から中国山地の奥地は現在も入山不可能な状況にあるが、素材生産業者各社とも積雪の少ない地域の作業現場を確保しており、丸太の出材量は減少することなく、安定的に供給できている。
- ・ 山側からの丸太の出材は安定的・計画的に実行されているが、受け入れる側の製材工場等の在庫調整が進まず、大きなブレーキを踏んでいる状況にあり、木材需給のバランスが崩れかけていると思われる。
- ・ 広島県内の製材工場では、住宅着工の減少等によって流通在庫が増加していることから減産傾向にある。日本のマーケットに流通しているWウッド、Rウッドに対抗し、製品価格の値下げをしている状況にある。
- ・ 京都府内の合板工場では、10%の減産を実施しているが、それでも在庫調整が進まず、さらに10%の減産が必要な状況になってきている。
- ・ 岡山県内の集成材工場では、在庫調整が進まず、減産を実施していることから、ラミナの受入制限も行われている。
- ・ 奈良県内の原木市場では、昨年末から1月にかけての降雪の影響もあり、例年に比べ出材量は少ない状況が続いている。また、昨秋以降、先行き市況の不安感からヒノキの伐採は敬遠され、市況が長期間安定しているスギ施業へ移行が進んだため、ヒノキの出材量は大幅な減少となっている。スギ・ヒノキともに並材価格は、製材用材・合板用材の需要減退による先行きの市況に不安感があるものの、現状の市況は底堅く安定が続いている。特にスギは長期間にわたり安定した市況が続いており、ヒノキも夏場の低調な価格から出材量の減少に伴い、寒伐り材の出材に合わせ再度値上がりの動きを見せ、年初も安定した価格となっている。製紙・バイオマス向け低質材の原木不足は続いており、引き合いの多さから価格の下支えとなっている。

- ・ 大阪府内の製品市場では、2月の売上額は前年と比較して23%減、販売量は11%減となった。木材価格は荷動きが鈍い影響で、ほとんどの材種で弱含んでいる。

○今後の見通し

- ・ 製材工場等で在庫調整が進んでいない中、3月から4月にかけて、全国各地の原木市場で記念市が開催され、大量の出材が見込まれることから、原木価格の暴落が懸念される。
- ・ 現在、木質バイオマス発電に使用する燃料用チップが不足しており、出材された原木の多くが燃料用材として流通する可能性もあることから、木材流通の仕組みを考え直さないと、今後のBC材の供給体制が大きく崩れてしまう恐れがある。
- ・ 欧州材の価格は下落傾向にあったが、Rウッドの価格は保合、Wウッドの価格は少し値上がりする見通しにある。国産材のスギ集成管柱はWウッドと競合することから、値下げにブレーキがかかってくるのではないかと考えられる。一方、アメリカでは住宅着工が20%程度減少していることから、今後の丸太価格は値下がりするのではないかと考えられる。
- ・ 奈良県内の原木市場では、出材量の減少に伴い市況が引続き安定していることから、3～4月に寒伐り材の出材が進むことが予想される。しかし、5月以降の新規伐採は住宅着工戸数の減少や外材の動向による先行き市況の不透明感から山側の伐採は慎重な姿勢で積極的な施業は見込めない状況にある。スギの出材量が増えており、今後の需給動向により長期間安定していた価格の下落が懸念される。
- ・ 大阪府内の製品市場では、1月の販売量は5ヵ月ぶりの増となったが、2月は前月比8%減と荷動きは急に鈍くなっている。プレカット工場向けはあまり変化がないが、材木店向けは特に鈍いと思われる。ウッドショック後、木材価格は値下がりしているが、木材以外の住宅資材・設備機器は値上りが続き、住宅価格も上昇傾向にある。また、住宅ローン金利の上昇もあり新設住宅着工戸数の減少が続くことも予測され、今後、非住宅向けの販売先の開拓が急務と思われる。

○その他

- ・ 今回の委員会では、木材需給の先の見通しが立たない不安感から、様々な意見が出されたものと承知している。このような時こそ原点に帰り、民有林、国有林が一体になって安定供給に取り組み、国内における外材への依存度を少しでも減らしていき、真の国産材時代を作り上げることが必要である。
- ・ 合板工場の10%以上の減産が必要となる最大の理由は中国製合板の輸入である。中国が日本向けであったロシア単板2万m³にNZ材等を入れることで3万m³の合板の供給力を持つことになり、木材需要が減少していく中、3万m³の中国製合板が常に日本に対する供給圧力となってくると思われる。

現在は、昨年の中国合板メーカーのJAS問題によって、中国製合板の輸入が止まっているが、再び輸入されることになれば、3万m³の供給圧力が一挙に解き放たれて、国内の合板市況に非常に大きな影響を及ぼす恐れがあり、5月の連休明け頃にはJAS問題のほとぼり

が冷め、再び安価な中国製合板が輸入され始めるのではないかと懸念している。

- 今回の J A S 違反問題に対する再発防止策が明確にされないまま放っておかれているのではないかと感じている。J A S 違反を行った中国合板メーカーは、昨年 2 月から違反をしていたにも関わらず、違反が発覚する 7 月まで何ヵ月間も生産を続けていたわけであり、J A S 認定の管理はどうなっているのか。
- 輸出統計を見たところ、舞鶴港から中国への原木輸出量は、昨年 1～3 月の月平均が約 300 m³であったところ、4～12 月の月平均が約 3,000 m³と 10 倍になっている。国内ではエネルギー価格や電気料金等が上昇し問題になっている状況の中、エネルギー資源でもある原木をなぜ中国に輸出するのか。国内で販売するよりも価格が高いからといって中国に輸出するというのは国益に反するやり方ではないかと思われる。

令和4年度

第4回 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

委員

氏名	所属等	備考
松下 幸司	京都大学 教授	Web出席
小川 泰典	和歌山県農林水産部森林・林業局 林業振興課長	Web出席
戸川 睦徳	株式会社戸川木材 代表取締役	Web出席
八木 数也	株式会社八木木材 取締役	
三栖 基史	株式会社山長商店 常務取締役	Web出席
荻原 直樹	中国木材株式会社山林事業部 副本部長	Web出席
内藤 和行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長	
難波 芳英	江与味製材株式会社 代表取締役会長	
西垣 泰幸	西垣林業株式会社 代表取締役会長	

森林管理局

氏名	役職等	備考
松本 寛喜	次長	
清水 隆典	森林整備部長	
西村 敏行	資源活用課長	
野村 昭二	企画官（間伐推進）	
柴田 章治	企画係長	
石田 英夫	行政専門員	

令和4年度 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会 委員名簿

区分	氏名	所属	備考
学識経験者	まつした こうじ 松下 幸司	京都大学 教授	Web出席
都道府県	おがわ やすのり 小川 泰典	和歌山県農林水産部森林・林業局 林業振興課長	Web出席
	いしはら ただし 石原 匡師	岡山県農林水産部 林政課長	ご欠席
素材生産業	とがわ むつのり 戸川 睦徳	株式会社戸川木材 代表取締役	Web出席
	やぎ かずや 八木 数也	株式会社八木木材 取締役	
木材業界	みす もとふみ 三栖 基史	株式会社山長商店 常務取締役	Web出席
	おぎわら なおき 荻原 直樹	中国木材株式会社山林事業部 副本部長	Web出席
	ないとう かずゆき 内藤 和行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長	
	なんば よしひで 難波 芳英	江与味製材株式会社 代表取締役会長	
原木市場 製品市場	にしがき やすゆき 西垣 泰幸	西垣林業株式会社 代表取締役会長	